

加盟団体紹介 「神奈川県ゲートボール連合」

会長 岡田喜久雄

1. 沿革

- ・ゲートボールは 1947 年、北海道芽室町の鈴木栄治がヨーロッパの伝統競技「クロッカー」を基に「子供がどこでも気軽にできるスポーツ」として考案した。
- ・1964 年の東京オリンピック後、そのレガシーの一つとして文部省は「国民皆スポーツ運動」を推進したが、その中で高齢者でも可能なスポーツとしてゲートボールへの関心が高まり、文部省の後押しで 1970 年代になり急速に普及を遂げることとなった。
- ・1980 年代初頭には競技者が 60 万人を超えるまでに成長し、全国的な統括組織が必要となり、1984 年に（財）日本船舶振興会（現、日本財団）の支援を受け、日本ゲートボール連合（JGU）が組織された。
- ・当連合は、1985 年 5 月、横浜市中区の通信会館に長洲一二知事はじめ多数の来賓と 50 人の地区代表出席のもとで結成創立総会が開催された。

2. 組織

現在 46 市区町の団体と学校連絡協議会により構成されている。

しかしながら、1996 年 17,000 人いた会員数は 2018 年には 3,183 人と約五分の一に減少はしているが(公財)日本ゲートボール連合 2018 年全国会員数では当県は第 3 位。

3. 事業

- ・全国ジュニアゲートボール大会県予選、全日本世代交流大会県予選、全日本選手権大会県予選、全国選抜大会県予選大会、国民体育大会（公開競技）南関東地域県予選大会、ねんりんピック県予選大会、その他、親睦大会として、市区町大会やメンズ大会、レディース大会、支部対抗大会、県選手権大会を行っている。
- ・2019 年には、全国ジュニア大会 2 部の部で「さがみっ子」が優勝、国民体育大会（公開競技）女子の部南関東地域代表の「夢湘南」が準優勝、全日本選手権大会では「湘南ちがさき」が第 3 位の好成績をおさめた。その中でも、全日本選手権大会選手に出場した、12 歳と 9 歳の兄弟が活躍し注目を集めた。

加盟団体紹介 「清川村体育協会」

会長 西尾恒一郎

清川村は県の北西部にあり、宮ヶ瀬湖を有し、村の約90%を山林が占める県唯一の村です。

清川村体育協会は、軟式野球、軟式庭球、バスケットボール、ママさんバレーボール、剣道、卓球のそれぞれ独自に活動を行っていたクラブをまとめ、村のスポーツの活性化を図ることを目的として、昭和44年7月1日に発足しました。

協会発足後は、中学校クラブ活動との交流やスポーツ教室の開催など、住民がスポーツに触れ合う活動を積極的に行った結果、新たにバドミントンと少林寺拳法が加盟し、活動が活発になってきました。

順調に進んできた当協会ではありましたが、昭和57年以降になると、国が進めていた「宮ヶ瀬ダム」の建設が本格化したことに伴い、宮ヶ瀬地区の住民が徐々に村外へ移転し、部員不足となり、休部を余儀なくされるクラブが複数出て、厳しい状況となりましたが、清川村と連携し、「村総合体育大会」を開催するなど、これまで以上にスポーツ振興に努めてきたところ、新たにソフトボール協会が協会に加盟し、少しずつではあるが活性化が図られてきました。

また、清川村出身で前慶応大学野球部監督の大久保秀昭さん（当時、日本石油野球部）がアトランタオリンピックの野球日本代表に選出され、銀メダル獲得に大きく貢献したことは、地域の子供たちにとっても、大きな夢と希望を与える出来事でした。

平成10年には、「第53回国民体育大会」（かながわ・ゆめ国体）のカヌーレーシング（夏季）と自転車ロードレース（秋季）の競技会場となり、県体育協会や種目別協会の指導を受けながら、多くの会員が協力して開催することができました。

国体をきっかけとしてカヌークラブ（現在は、きよかわアウトドアスポーツクラブ）が生まれ、協会へ加盟し、カヌーレーシングの競技会場となった「宮ヶ瀬湖」を中心に、カヌー教室などを開催しています。

しかし、近年は協会会員の高齢化が進み、新たに協会へ加入する人も減少しているため、現在では、「剣道育成会」・「きよかわアウトドアスポーツクラブ」・「ソフトボール協会」の3団体のみ活動となっていますが、ノルディックウォーキング教室、耐久ソフトボール大会など身近で親しみやすい事業や指導者育成事業を行い、協会の活性化に努めています。